

ボスニア・ヘルツェゴビナからスポーツ教育関係者を招聘 ～スポーツ教育を通じた信頼醸成～

JICA は、2017年2月7日（火）から2017年2月17日（金）まで、ボスニア・ヘルツェゴビナから5名の教育庁及びスポーツ協会関係者を招聘します。

10日間の研修期間中、筑波大学の協力の下、スポーツ庁、筑波大学附属小学校、日本体育大学、国立スポーツ科学センター、日本アンチ・ドーピング機構、吹田市ガンバ大阪の拠点である吹田スタジアムの視察などを行います。

2013年9月国際オリンピック委員会総会において、安倍首相はスポーツを通じた国際貢献として“Sport for Tomorrow”(SFT)プログラムを掲げ、2014年～2020年の東京オリンピックまでに、100国以上1000万人以上を対象にスポーツの価値を伝える為の取組みを日本が行っていくことを国際公約として宣言しました。それを踏まえて、JICAでは未来を担う世代を始めあらゆる世代にスポーツの価値を広めるSFTの取組みとして、2015年度より「スポーツ」をテーマとした研修を開始、また昨年からは、サッカー元日本代表で主将を務めた宮本恒靖氏を中心に、サッカーによる民族融和を目指してボスニア・ヘルツェゴビナで設立した子どものためのスポーツアカデミーの支援を行っています。

ボスニア・ヘルツェゴビナは1992年にユーゴスラビアからの独立をめぐって民族間の対立が勃発し、3年半以上にわたる紛争で、死者20万人、難民・国内避難民200万人という甚大な犠牲を出しました。1995年には和平合意成立で紛争に終止符が打たれましたが、それから20年以上が経ついても、各民族が別れて暮らし、学校教育も別個に行うなど未だに民族の真の融和には多くの障害が残っています。今回、体育教育の質の向上や、各民族共通の体育の共通カリキュラム策定を目的とした研修を実施する事によって、ボスニア・ヘルツェゴビナの未来を担う子どもたちの心にお互いの信頼醸成への種をまくことを目指しています。

またこの研修では、日本の学校教育の現場の視察だけでなく、スポーツを通して「他者への信頼や尊敬」といった価値観が学ぶ世界の子ども向けの教材を作成した「日本アンチ・ドーピング機構」の講義や、元柔道金メダリストの山下泰裕氏が理事長を務め、柔道を通じて異文化理解を推進する「柔道教育ソリダリティー」訪問を通じて、紛争影響地域の子どもたちへのSFTの精神に基づく教育方法を学ぶ機会を提供する予定です。

ぜひ取材をご検討ください。

日時：2017年2月8日（水）13：30～16：30 講義 JICA 筑波

場所：茨城県つくば市高野台 3-6

日時：2017年2月10日（金）9：30～17：00（昼休憩含） 講義・見学 筑波大学附属小学校

場所：東京都文京区大塚 1-9-1

日時：2017年2月14日（火）9：10～16：30（昼休憩含） 講義・見学 日本体育大学

場所：東京都世田谷区深沢 7-1-1

日時：2017年2月15日（水）9：30～11：30（予定） 講義 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）

場所：東京都北区西が丘 3-15-1 国立スポーツ科学センター内 会議室

日時：2017年2月16日（木）13:30～17:30 「アクションプラン発表会」 JICA 東京

場所：東京都渋谷区西原 2-49-5

【 本件お問合せ先】

JICA 筑波 研修業務課 担当者名：福田 聖子

〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3-6

TEL：029-838-1744 FAX：029-838-1790

E-mail：Fukuda.Seiko.2@jica.go.jp

以上